



下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2011. 12. 26

下水道機構の『新技術情報』 第 27 号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>



今号が本年最後のメールマガジンとなりました。早いもので、おかげさまで 6 月より配信を開始し 6 か月が経ちました。読者の皆さま、毎度ご愛読ありがとうございます。2012 年も皆さまの業務や TeaBreak にお役にたてるような情報を配信できるよう内容の充実を図っていきたいと思いますので今後ともご愛読のほどよろしくお願ひします。それでは皆さま、良いお年を♪

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第 27 号をお届けします。

■□■□トピックス□■□■

★インフォメーション

・前回に引き続き 12 月 6 日に開催された平成 23 年度の第 2 回技術員会の結果についてお届けします。

・12 月 20 日に第 1 回下水道 BCP 策定マニュアル(地震・津波編)検討委員会が開催されました

★機構の動き

・12 月 29 日(木)～1 月 3 日(火)は、年末年始のため機構はお休みとなります

★Tea Break

・子供の成長 (技術評価部 深尾さんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

インフォメーション (最新の話です)

●12 月 6 日に平成 23 年度の第 2 回技術員会が機構特別会議室で開催され、今回委員会では 11 テーマ中、9 テーマの発表 (審議) が行われました。

前号では、9 テーマのうち 4 テーマについて審議結果の概要をお伝えしましたが、今号では残り 5 テーマについてお伝えします。

(5)「セラミック平膜を用いた膜分離活性汚泥法に関する共同研究」

本研究は、(株)明電舎との共同研究であり、セラミック平膜として期待される表面の平滑さおよび高強度という特長に注目し、膜閉塞防止のために行う膜洗浄曝気の風量や処理水による逆洗頻度の低減等によって、膜分離活性汚泥法における必要動力を削減することを目的とするものです。

技術委員会では、平成 23 年度の現地実証試験のうち中水温期および高水温期のデータについて良好な結果が得られていることを報告しました。引き続き実施する中水温期、低水温期の結果もふまえて技術資料案をまとめ、次回の委員会で審議する予定です。

(6)「トータルエネルギーシステムとしての汚泥減量化技術に関する共同研究」

本研究は、(株)神鋼環境ソリューションとの共同研究であり、エネルギー回収と汚泥減量化を組み合わせた技術について、自治体が導入検討する際に必要となる事項や、費用効果及びエネルギー削減効果をケーススタディにより整理し技術マニュアルとしてとりまとめるものです。技術委員会では新規案件として審議が行われ、システムの廃熱利用や経済比較の範囲等に関する質疑や意見を頂きました。これらの意見を踏まえ、今後検討を進め、次回の委員会ではケーススタディの内容について審議をする予定です。

(7)「衝撃弾性波法による管路診断に関する共同研究」

本研究は、積水化学(株)、ペンタフ(株)と当機構の 3 者で実施している共同研究であり、「衝撃弾性波法」を管路の劣化の定量評価手法として活用するために、調査・診断の手法や解析・評価方法、結果の利用方法等を整理し、「技術資料」として取りまとめるものです。

委員会では、衝撃弾性波法による 1. 検査データの解析・評価方法、2. 外圧強度の推計値と測定値との比較、3. 技術資料案の内容の報告を行い、主に検査結果の信頼性、結果の表現方法についての観点から審議が行われました。今回の委員会での指摘を踏まえて再整理を行い、次回の委員会で審議する予定です。

(8)「下水道マンホールふたの調査・診断・更新に関する共同研究」

本研究は、マンホールふた関連協会 2 者、コンサルタント 4 者と当機構の合計 7 者で実施している共同研究であり、ふたの性能劣化や機能不足によるリスクを明らかにすることによって、予防保全型の維持管理の必要性や、適切な巡視、点検・調査、改築の優先順位の考え方を確立し、効率的なマンホールふたの維持管理計画や長寿命化計画の策定支援に寄与することを目的としています。技術委員会では、性能・機能の定義の整理や健全度判定表、耐スリップ性能のリスクマトリクスについて審議が行われました。今後、次回の委員会に向けて、技術マニュアルとしてまとめる予定です。

(9)「リスク管理を考慮した監視システムに関する共同研究」

本研究は、(株)東芝、(株)日立製作所、(株)明電舎、メタウォーター(株)、三菱電機(株)と当機構の 6 者で実施している共同研究であり、下水道施設における従前の監視システムにリスク管理上有効な付加機能を備えた新たな監視システムについて検討し、「技術資料」と

して取りまとめるものです。

技術委員会では、対象とするリスク項目の選定結果、リスクを回避するための監視システム支援機能等について報告し、審議されました。今後はリスク事象の再整理と支援システムの効果の明示等について検討を進め、技術資料（案）と合わせて次回の委員会で審議する予定です。

●12月20日に第1回下水道BCP策定マニュアル(地震・津波編)検討委員会が開催されました。本委員会は、東日本大震災での課題と経験を踏まえ、平成21年11月に国土交通省より発刊された「下水道BCP策定マニュアル(地震編)～第1版～」の改訂を目標としています。

当日は、前回委員会でも委員長を勤められた、明治大学大学院政治経済学研究科 中林一樹特任教授が委員長として選任され、宮城県による「東日本大震災における初動期業務の対応と課題」について報告がされるとともに、「東日本大震災を踏まえた下水道BCPのあり方」、「マニュアル改訂項目(案)」などについて議論がされました。

議論の内容や資料につきましては、近日中に国土交通省のHPに公開される予定です。

機構の動き (機構の行事予定です)

●12月29日(木)～1月3日(火)は、年末年始のため機構はお休みとなります

●1月12日(木) 17:00～18:00 (場所：下水道機構8階中会議室)

第300回技術サロン(テーマ「我が国の今後の下水道事業の展開について」、ゲスト 国土交通省 下水道企画課 下水道事業調整官 加藤 裕之氏)

★1月27日(金) 12:00～17:30 (場所：東京国際フォーラム D5 ホールロビー)

第4回東京海洋大学「水産海洋プラットフォーム」フォーラム【研究成果ポスター展】において東日本大震災の被災地調査・研究成果について出展します。

Tea Break (機構職員の感じるまま)

●子供の成長 (技術評価部 深尾さんからの投稿です)

今にもかすれそうな小さい声で、「ばば・・・あいたいよ・・・」携帯電話の留守録にある息子からの伝言です。この機構メールマガジンが、皆様のもとへ届く頃には2歳になっています。昨年の今頃は、会いに行くたびに、熱を出した息子を病院へ連れて行く事が私の仕事となり、口の悪い友人には「嫌われている」とまで言われていた始末です。

しかし、冒頭の留守録です！今ではこんな寒い季節を「ほっこり」とさせてくれるセリフまで言えるようになっていました。ただし・・・息子の後ろに控えている大人たちが同じセリフを小声で言っているところまで録音されています・・・。

それでも帰った時には、小さな頭で考えていることを、一生懸命私に身振り手振りを交

えて話してくれます。家での事、託児所での事、お友達のこと、食べ物の事 etc・・・もちろん、ちゃんとした言葉にならない部分が大半ですが、それでも「父と息子、不思議と会話になっている」そうです。

単身赴任のため限られた期間しか会えませんが、年末年始はいつもより長い時間会うことが出来ます。去年は年明け早々に体調を崩してしまい、良い年末年始とは行きませんでした。また今年は暗いニュースに心を痛めた方も多いと思いますが、来年が少しでも良い年であることをお祈り申し上げます。

みなさまのコラム（皆様からお寄せいただいた情報です）

●掲載情報募集中！

機構の新技术情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。
情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としていますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。



発行元：財団法人 下水道新技术推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方は

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせは

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニューズレターはこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/>

○コラムの正解はこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/seikai.pdf>

